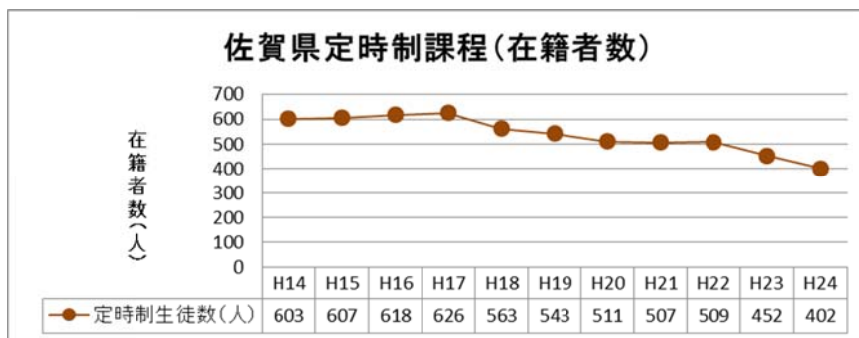
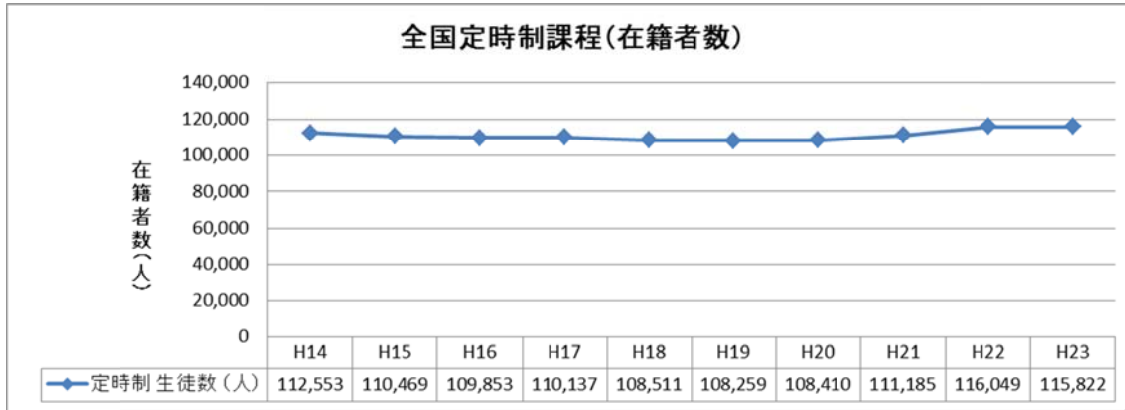


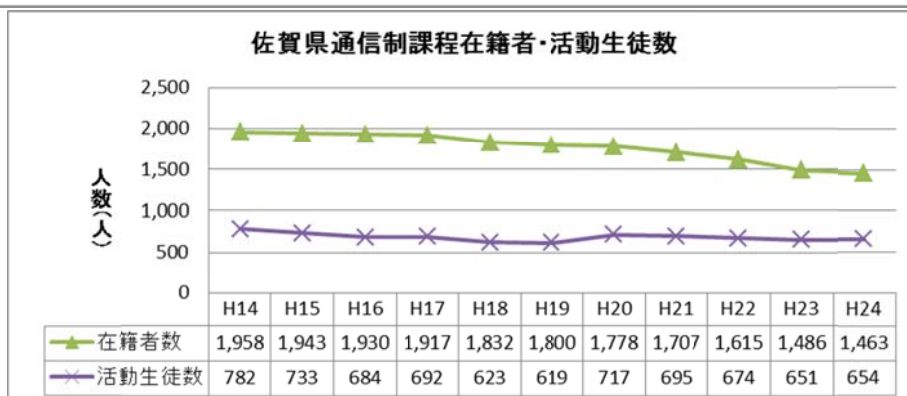
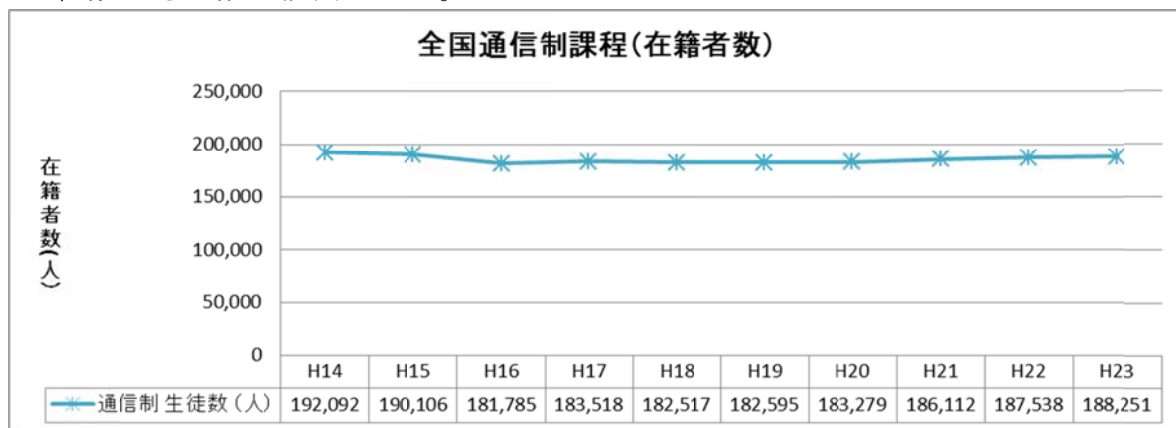
資料6 本県の定時制課程・通信制課程

1 定時制・通信制の在籍生徒数

定時制課程の在籍者数は、全国的に増加傾向だが、本県では減少している。



また、通信制課程の在籍者数も全国的には微増だが、本県では在籍者数、活動生徒数ともに減少傾向である。



2 定時制課程及び通信制課程の設置状況

(1) 定時制課程の設置状況

○ 平成 23 年度の全国的な定時制課程（国公立、本校＋分校）の設置状況は次の表のとおりである。

都道府県	定時制独立校または定通独立校	全定併置校	定時制合計	都道府県	定時制独立校または定通独立校	全定併置校	定時制合計
鹿児島	—	2	2	青森	3	9	12
鳥取	2	2	4	茨城	3	9	12
山形	1	4	5	和歌山	5	7	12
島根	2	3	5	岡山	12		12
秋田	1	5	6	香川	—	12	12
富山	5	1	6	三重	3	10	13
石川	5	1	6	京都	6	7	13
徳島	1	5	6	宮城	8	6	14
大分	2	4	6	群馬	2	12	14
宮崎	2	4	6	山口	1	13	14
福島	5	2	7	高知	4	11	15
滋賀	3	4	7	千葉	—	18	18
奈良	3	4	7	長野	3	17	20
佐賀	—	7	7	静岡	2	19	21
栃木	2	6	8	広島	3	19	22
福井	3	5	8	福岡	4	19	23
山梨	2	6	8	大阪	9	16	25
長崎	2	6	8	兵庫	16	11	27
沖縄	1	7	8	神奈川	3	25	28
新潟	8	1	9	埼玉	5	26	31
熊本	—	9	9	愛知	3	30	33
岩手	3	8	11	北海道	10	34	44
岐阜	3	8	11	東京	15	61	76
愛媛	2	9	11	合計	178	504	682

○ また、定時制設置校のうち、定時制独立校と定通独立校の設置校数は次の表のとおりである。

	平成元年度	平成5年度	平成10年度	平成15年度	平成20年度	平成22年度	平成23年度
定時制設置校	919	887	839	779	719	704	682
うち定時制独立校または定通独立校	185	174	169	178	183	184	178

本校＋分校	平成元年度	平成5年度	平成10年度	平成15年度	平成20年度	平成23年度
定時制独立校または定通併置校未設置県数	3	4	4	4	5	5
都道府県名	香川、佐賀、鹿児島	山形、香川、佐賀、鹿児島	香川、佐賀、熊本、鹿児島	香川、佐賀、熊本、鹿児島	千葉、香川、佐賀、熊本、鹿児島	千葉、香川、佐賀、熊本、鹿児島

本校	平成元年度	平成5年度	平成10年度	平成15年度	平成20年度	平成23年度
定時制独立校または定通併置校未設置県数	10	10	9	10	8	7
都道府県名	山形、長野、鳥取、島根、山口、香川、愛媛、福岡、佐賀、鹿児島	山形、長野、鳥取、島根、山口、香川、愛媛、福岡、佐賀、鹿児島	長野、鳥取、島根、山口、香川、愛媛、佐賀、熊本、鹿児島	長野、奈良、鳥取、島根、山口、香川、愛媛、佐賀、熊本、鹿児島	千葉、長野、島根、山口、香川、佐賀、熊本、鹿児島	千葉、山口、香川、愛媛、佐賀、熊本、鹿児島

- 本県の定時制課程設置校は7校であり、すべて全日制との併置である。うち1校は平成23年度に再編により募集停止としているので、平成24年度は、3、4年次生だけが在籍している。

学科については、7校のうち1校が、前述した再編により、普通科と機械・電気科を併置している。ただし、普通科の生徒は1、2年次生だけである。

(2) 通信制課程の設置状況

- 平成23年度の全国的な通信制課程（公立、全日制との併置、通信制との併置を含む）の設置状況は次の表のとおりである。

	平成元年度	平成5年度	平成10年度	平成15年度	平成20年度	平成22年度	平成23年度
通信制設置校(公立)	67	69	69	68	71	72	73
うち通信制独立校	5	7	6	6	8	7	7

- 本県の通信制高校は1校で、全日制と併置しており、学科は普通科と家庭科を併置している。

【参考】平成24年度定時制・通信制課程の配置状況（()の数字は募集学級数）



平成24年度 大学科別 学校数・学級数一覧(定時制・通信制)

		東 部		中 部		北 部		西 部		合 計	
		学校数	学級数	学校数	学級数	学校数	学級数	学校数	学級数	学校数	学級数
定時制	普通科	1	(1)	1	(1)					2	(2)
	工業科	1	(1)	1	(1)			1	(1)	3	(3)
	商業科					1	(1)	1	(1)	2	(2)
	合 計	2	(2)	2	(2)	1	(1)	2	(2)	※7	(7)
通信制	普通科			1						1	
	被服科			1	定めていない					1	定めていない
	合 計			2						※2	

※複数学科を併置している高校があるため、H24に募集を行った実際の定時制の学校数は6校、通信制は1校である。

3 定時制課程・通信制課程の実態と課題

(1) 全国の定時制課程・通信制課程の実態及び課題

(平成23年度文部科学省委託事業「定時制課程・通信制課程の在り方に関する調査研究(株式会社三菱総合研究所)」結果概要より)

① 定時制高等学校の実態及び課題

- 勤労生徒の割合は低い一方で、日本語教育について支援を必要とする外国籍の生徒が在籍している学校が23.6%、特別な支援を必要とする生徒が在籍している学校が82.3%、不登校経験を有する生徒が在籍している学校が95.9%と割合が高くなっており、多様な生徒が在籍している。
- 多様な生徒への対応のための活動として各学校が実施していることは、特別支援教育に関すること、生徒のカウンセリングに関すること、生徒指導に関することの割合が高い。
- 多様な生徒への対応のための活動として活動として各学校が重視していることは、生徒の状況の把握・学習意欲の維持、キャリア教育、授業における少

人数指導であった。この背景には、多様な生徒への対応として、一人一人の状況に応じた教育の実現、学習の動機付け、就職支援等が教育上の課題として認識されていることがわかる。

② 通信制高等学校の実態及び課題

- 勤労生徒の割合は低い一方で、特別な支援を必要とする生徒が在籍している学校が 81.4%、不登校経験を有する生徒が在籍している学校が 91.4%と割合が高い。
- 多様な生徒への対応として各学校が実施していることは、生徒へのカウンセリングに関すること、各教科の指導に関すること(面接指導)、特別支援教育に関することの実施割合が多い。
- 多様な生徒への対応のための活動として各学校が重視していることは、生徒の状況の把握・学習意欲の維持、レポート課題などの添削指導、キャリア教育であった。定時制課程と同様に、多様な生徒への対応として、一人一人の状況に応じた教育の実現、学習の動機付け、就職支援等が教育上の課題として認識されていることが考えられる。
- 面接指導については、週 2 回以上のコースが 35.9%を占めるなど、通学頻度の高いコースもあり、通信教育を基本とする従来の通信制の形態とは異なる教育を行っている学校が一定数ある。
- メディアの活用を行っている学校が 66.2%であり、その具体的な媒体としてはNHK 高校講座の放送視聴(テレビ・ラジオ・ウェブサイト)の割合が高く、双方向での活用を行う学校は少数にとどまる。

(2) 本県の定時制課程・通信制課程の実態及び課題

- 定時制課程や通信制課程に入学する生徒は全国と同様に、勤労生徒の割合は低くなっており、不登校経験を有する生徒や特別な支援を必要とする生徒もあり、生徒は多様化している。

平成 24 年度の定時制課程の在籍者数は 402 人(速報値)となっており、定員の充足率の平均は 35.9%となっている。

- 県立高校再編整備第一次及び第二次実施計画における定時制・通信制課程
 - ・ 県立高校再編整備第一次実施計画において、定時制・通信制については、生徒の多様化に伴い、生徒の学習希望により柔軟に応えることのできる昼間部の定時制課程の設置について検討を要する状況であり、昼間部の定時制課程に通信制課程を併置することで、教育環境の充実を図ることとしていた。しかし、校地の問題があり、実現していない。

- また、定通併置校の組合せについては、鳥栖高校定時制、佐賀商業定時制、佐賀北通信制の3校を統合して、定通併置校を設置することとしていたが、再編整備第二次実施計画において、鳥栖高校定時制を鳥栖工業高校定時制に再編統合したため、新たな組み合わせを検討する必要がある。
- 定時制課程については、唐津商業高校定時制に伊万里商業高校定時制を再編統合する案があったが、通学の不便さへの課題があり、生徒数の状況を注視していくこととし、引き続きの検討課題としている。